
スマプラ軍団の大乱闘な日常！！

ikki

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラ軍団の大乱闘な日常！！

【NNコード】

N6155M

【作者名】

ikkii

【あらすじ】

ikkiiの小説のスタート作品です！！

（小説ではありません。スマブラ小説のはじめだと思つてください。）

ヒューローク

ある日、マスター・ハンドはある建物に皆を呼び寄せていた

マスハン「スマッシュ・ショーブラザーズよ私の前に集結せよーーー！」

5分後、彼らは瞬間移動してやってきた。

マリオ「なにーーーびっくりしたーーー！」

ピット「あーーーっマスハンだーーー！」

マスハン「やあ、みんな、久しぶりだなーーー！」

ヨッシー「何で僕たちを呼んだの？大食い大会ーーー！」

マスハン「いや、やつこつ」ではない。今日呼び寄せたのはとも大事なことを
娘たちに告げるためだ

ネス 「なに？ もつたいぶらぎに教えてよ！――！」

マスハン 「よし、分かった！――みんな！ 聞いてくれ！
これから君たちには、じいじで暮らしてもいい――！」

全員「はああああああああ――！」

マスハン 「すまない！――みんな、これはとても大事な」となんだ。
しかし、じいじでちゃんと

高級な設備は用意してある

ゼルダ「それは建物を見たら分かるけど、まだ誰にも連絡していないわ！！きっと朝お城が大騒ぎよーー！」

マスハン「それは大丈夫だ。心配するな。」

テト「なぜなのだ？我輩はワドルディがとても心配だぞい」

マスハン「なぜなら君たちの世界は時が止まっているからだ」

ピカチュウ「時が止まる…どうしてそんなことが出来るの？」

マスハン「私にとつてそのくらいのことは簡単だ。わたしの魔力で

あつとこつまだ。

ちなみにこじま、まあスマートワンドでもいいや。

」

ウォッチ「ソレハワカリマシタ。ワタシタチハココトナーラスレバ
イインデショウカ?」

マスハン「すまないが私は最近娛樂に飢えているのだ。だから君たちにいろいろなことをしてもらひて、楽しみたいのだすまない私のわがままに付き合ってくれ!-!」

そのとき、全員が一瞬静かになった

ロイ「こらんな・・」と?/?/?

ワリオ「それって我輩たちも楽しめるものなのか?」

マスハン「ああ、君たちが楽しめるものにある。君たちが辛くなる
よつな」とはしない」

マリオ「だつたらいんじやない？」

全員 「えつ？」

また一瞬全員が静まり返る。

ルイージ「なんでなのを兄ちゃん？？」

マリオ「だつてマスハンも悪い人じやないし」との人も悪くはない。
だつたら思い出作り
に最適じやないか！…！」

トウーン「確かにそうだけど・・・」

？？？「僕は賛成するよ。」

やうこつたのはピカチュウだつた。

ピカチュウ「だつていじの人たちは、皆優しいもん。マスハンも困つてゐんだから、

協力しようよ！」

そしてこの意見が皆を動かした

リュカ「僕も賛成します」

ピーチ「私も賛成」

ピチュー「お兄ちゃんが賛成なら賛成！」

ワリオ「設備がよさそだから賛成」

ウォッチ「カエツテモツマラナイカラサンセイ」

続々と賛成意見が出る中・・・

？？？「俺は断固として反対するぞ！――」

トウーン「お前も賛成しろよ。」

ゼンキー「あと賛成しないのお前だけだぞ。」

マルス「やせ我慢すんなよー。」

ガノン「つるさこいわー!わしは行かんぞーー（怒）

反対していたのはガノンだった。

マスハント「頼むよガノン」

スネーク「ガノンが反対なら俺は元の世界へ帰るぞ」

「のとを何かを悟つた」ディディーは叫つた

ディディー「じゃあ僕が帰る」

「の行動を皆が悟つた

マリオ「じゃあ俺が帰る」

「 ファルコ 「 じゃあ俺が 」
「 ネス 「 じゃあ僕が 」
「 ロボット 「 ジャアボクガ 」
「 ポケトレ 「 いや僕が 」

ガノン 「 じゃあ俺が 」

全員 「 じゅじゅじゅじゅじゅ 」

ガノン 「 ううとうしいな…… いればいいんだが…… いれば…… 」

全員 「 やつた———— 」

マスハン 「 まあここに入った以上俺の許可がないと出れないからな。 」

「

全員その場に並んでいた

フォックス「マスハンそういう事は先に言え――」

マスハン「だつてなんか盛り上がつてたからつい・・・」

ピチュー「まあいいじゃん!」

マリオ「マスハンそれよつもの施設の説明をしてくれよ――」

マスハン「そうだな。これからはここをまあクラブハウスとでも呼ぼう。

皆の部屋は2階だ。それぞれ自分のネームプレートのところに入ってくれ。見たら分かるとおもうが指紋認証制だ。」

ピクオリ「安全というわけですね。」

マスハン「そして――の1階は娯楽施設からジム、食堂までなんでもあるぞ。」

ほしい施設がない場合は言つてくれ。」

カービィ「わ—————い 食堂だ！」

マスハンド「はしゃぎやしないぞカービィ。

それじゃまあ試しにみんな2時間自由行動だ！！」

全員「ひやつほ—————！」

そして2時間後・・・

ピット「楽しかったよね——」

リュカ「うそー！」

ピットとリュカをはじめ、ぞくぞくと帰つてきた

マスハンド「おーい、全員いるかーー？」

ウォッチ「カービイクントヨツシーケンガイマゼン!-!」

マスハン「なに！（怒）これから大事な話をするのに…」

カービィ、ヨッシー「ごめん、みんな、遅れちゃつた。」

マスハン「まあいい。それより大事な話をするぞ。」

連絡がきたら絶対1時間以内に言われた場所に来いよ。深夜には連絡しないから安心しろ。ちなみに、さぼるとペナルティがあるからな

それでは連絡が来るまで、解散！！！」

マスハン「許してくれて本当によかつた。さて何をしようがな?」

そういうながらマスハンは笑顔であつた（

顔はないが)

よろしくお願いしますーー！ 次からはギャグ小説なのでよろしくお願いしますーー！

これからクラブハウスです」とメンバーたち。
そしてこれは解散直後のメンバーの様子である。

ピット「リュカどうする?」

自由時間から一緒に行動していたピットとリュカ

リュカ「そうだね・・・ネスも誘つてゲームで遊ぼーー!」

ピット「そうだね!ネスだ!いいところにいた、ネス、ゲームしに行こうぜーー!」

ネス「いいよ。リュカも一緒に行こう!」

リュカ「うん、いいよ!」

ネス、リュカは、ピットと打ち解けれたようだ。

アイクラ「ぼくたちは一緒にいるけど、マルスとロイはどうする?..」

マルス「アイクは食堂へ行つたし・・・ロイ、アイクラ、とらあえず一周回つてみよう!」

ロイ「そうだね・・・つてこのクラブハウス大きせナゴヤドーム(東京ドーム行ったことがないので)

「8個分つてす!」くない!..!」

マルス「マスター金どんだけ持つてんだ? まあ早く行け! うん!」

アイクラ「うん!」

そういうてアイクラ、ロイ、マルスは、見学に行つた

フォックス「なんだ、お前らも部屋に帰るのか?」

二階行きのエレベーターを待つてゐるのは、
フォックス、サムス、ガノン、スネーク、ファルコ、ウル
フ、デデデ、ソニック

メタナイト、ピクオリ、ファルコン、ミューツー、クッパ
の13人であつた。

「この全員」・・・

「フォックス、まあ皆事情があるみたいだし、ま、いつか。」

そうしている間に、エレベーターが来た。軽く全員は乗れるような、

とても大きいエレベーターだった。

フォックス「全員乗ったな。2階へ行くぜ！－」

そして、一階へ上がって行つた。

アイク、ヨッシー、カービィ「食堂へGOOOOO！」

食堂へ猛ダッシュの3人。食のことでは3人はとても仲がいい。

ドンキー「負けねえからなーー！」

「負けないんだがら！！」

スロットに夢中の三人。ちなみに1番上手いのは、ワ

その他のメンバーも遊びまくった。

果たしてメンバーにどんな展開が待っているのか？？

いろんな話に続く。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6155m/>

スマプラ軍団の大乱闘な日常！！

2011年2月25日20時18分発行